

財団法人横浜企業経営支援財団

広島大学と産学連携協定を締結

財団が進める「広域的産学官連携システム」の
中四国最大の経済中心地「広島」展開！

(財)横浜企業経営支援財団(理事長 清水利光) IDEC は、横浜市内企業の経営を支援する唯一の公的支援機関として、総合的・継続的な支援体制による事業を積極的に展開しており、昨年度からは経営支援体制の充実・強化を図るため、金融機関(3大メガを含む6金融機関)や(株)知財マネジメント支援機構、市外大学(東海大学)、県外大学(早稲田大学、同志社大学、関西大学、関西学院大学、山口大学、高知大学、立命館大学)と戦略的業務提携を締結してまいりました。

本日、国立大学として、山口大学、高知大学に続いて3番目となる国立大学法人広島大学と産学連携に関する協定書を締結いたしました。

広島大学は1949年広島文理科大学、広島高等師範学校などを包括して設置されました。西日本の教育系大学の代表格としての伝統を持ち、国立大学としては、全国有数の規模と学生数を誇ります。11の学部と11の大学院と法科大学院を擁し、情報化、国際化、生涯学習及び国際協力へのニーズに対応した教育・研究が行われています。

広島大学の特色のある研究内容として次世代半導体の研究開発があげられます。世界標準化を目指す革新的なトランジスタモデルH i S I Mは横浜市に本拠を持つ(株)半導体理工学研究センターと共同開発したもので、世界的にも注目を集めています。また、半導体バイオ融合集積化技術プロジェクトでは半導体ナノテクにバイオ技術を融合することでバイオセンサ、有機・無機複合デバイス・プロセス、集積アーキテクチャ、生命体情報処理などの基盤技術から、バイオ、医療、IT、ロボット、環境への応用を目指し新産業分野を創出する取り組みを行っています。これら先端物質化学分野での横浜企業との連携が大きく期待できます。

財団が今年度重点的に取り組む農工連携事業においては同大の生物生産学部の「生物圏環境学」、「水産生物学」、「動物生産科学」、「食品科学」、「分子細胞機能」の分野での連携が期待できます。

財団を中心とした全国初の広域的産学官連携システム(横浜をベースとした、全国の大学と市内企業を結びつける産学連携体制)のさらなる拡充に向けた広島大学とは国立大学としては3番目、中国地域では2番目の連携となります。

今後は九州・北陸・北日本の国立大学へもネットワークを広げ、キメ細かく質の高い支援体制を構築することで市内中小企業が抱える経営課題の解決及び企業経営の安定と発展に向けて各種事業を強力に推進してまいります。

■ 横浜企業経営支援財団と広島大学との主な協議内容

1 広島大学の横浜市をコアにした首都圏における産学官連携の推進

広島大学が保有する技術シーズの市内企業での事業化を目指した研究推進体制の編成、ならびに知財の流通や新たな技術開発を促進し、産学官による地域連携を推進します。

- (1) 横浜市技術リエゾンプロデューサー (ILP) との定例的意見交換会の開催
- (2) 広島大学の次世代半導体、ナノ加工、環境、食などの研究シーズ (大学院先端物質科学研究科、工学部、生物生産学部等) と横浜市内企業ニーズとのマッチング
- (3) 広島大学特許出願案件の紹介
- (4) 産学連携プロジェクト企画、競争的資金への申請体制の構築
- (5) 横浜企業訪問 (関係研究者、産学連携コーディネータ、ILP と訪問)
- (6) 財団主催の産学交流サロン (実績 140 回開催)
次世代半導体、ナノ加工、環境等の分野での技術シーズの発表
- (7) テクニカルショウヨコハマ 2010 における出展

2 人材育成事業の推進

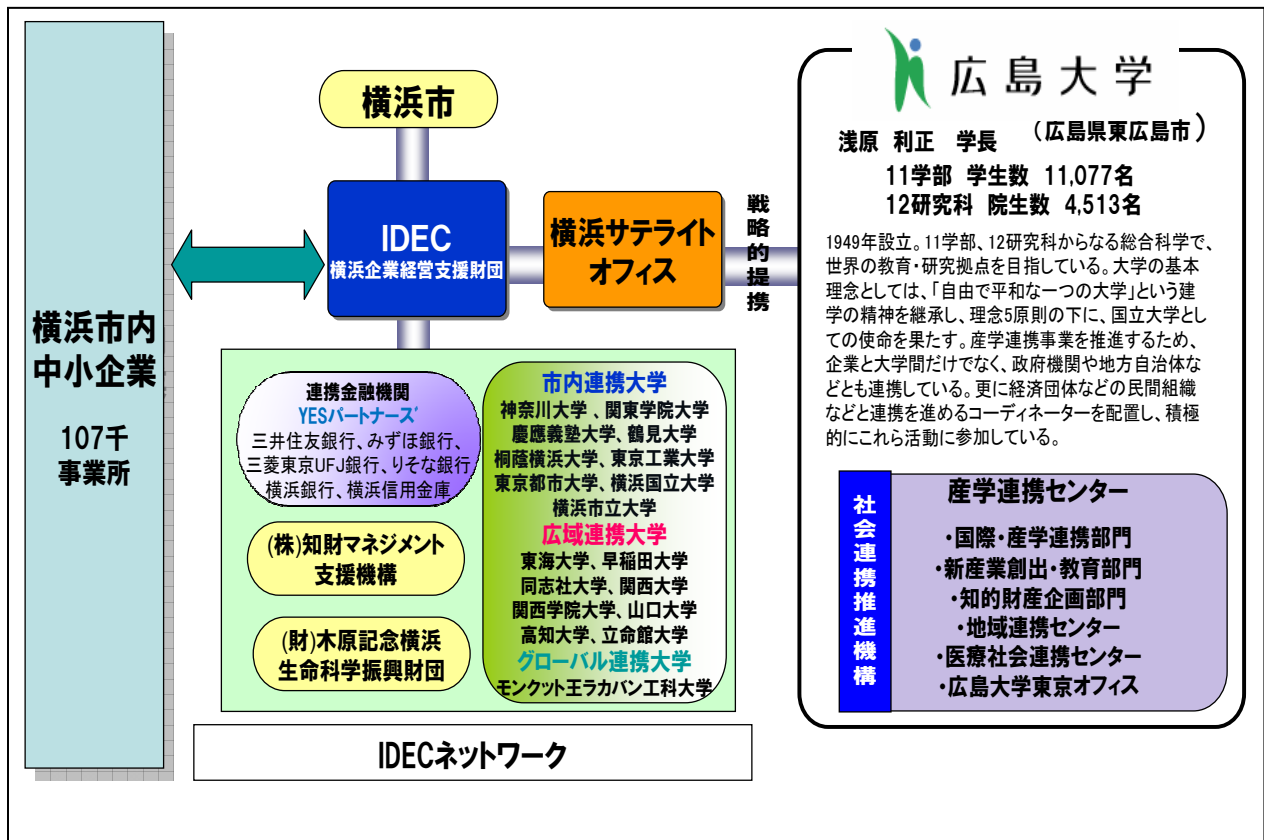
地域産業の担い手を育成する広島大学が主催する「イノベティブ企業家」講座への協力。

3 財団が保有する産学官－金融連携ネットワークの活用

財団が進める知財マネジメント支援機構や金融機関との戦略的提携による産学官－金融連携ネットワークの構築を通じて、産学連携の機会創出から技術評価、融資までのワンストップ支援を行います。広島大学が「横浜産学リエゾン会議」(連携 17 大学を中心とする産学連携事務局ネットワーク)に参加し、財団のネットワークの拡大・強化をはかります。

4 IDEC横浜産学連携サテライトの活用

財団は平成 21 年度に設置する横浜産学連携サテライトのスペースを提供します。広島大学は首都圏における技術リエゾン及び人材育成拠点として位置付け、活用します。



“広島大学・横浜企業経営支援財団 産学連携協定締結記念”

